

V 戦略の取組方針と展開

3つの戦略テーマを実現していくため、以下の6つの取組方針に沿って今後の公園づくりを行うこととします。

これにより、各公園の魅力向上及び地域資源との連携を図り、さらに「清流の国ぎふ回廊」としてのブランド形成を目指します。

1. 6つの取組方針

① 地域に愛される公園づくり

- ・ 地元住民が来園しやすい公園づくり
- ・ 子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり
- ・ 人々が集う地元イベントの誘致

② 四季折々の魅力を持つ公園づくり

- ・ 人々を魅了する景観創出
- ・ 季節を感じる植栽の展開
- ・ 季節に応じた企画の展開
- ・ 閑散期を底上げした通年型の公園づくり
- ・ 天候に関係なく楽しめるイベント

③ 地域の振興に資する公園づくり

- ・ 観光拠点としての事業展開
- ・ コンベンションやイベントの誘致・開催
- ・ 公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実
- ・ 産業振興としての利活用

④ 地域資源をつなぐ公園づくり

- ・ 世界遺産等の地域ブランドとの連携
- ・ 流域の魅力発信
- ・ 流域の地域資源を体験できるプログラムの提供

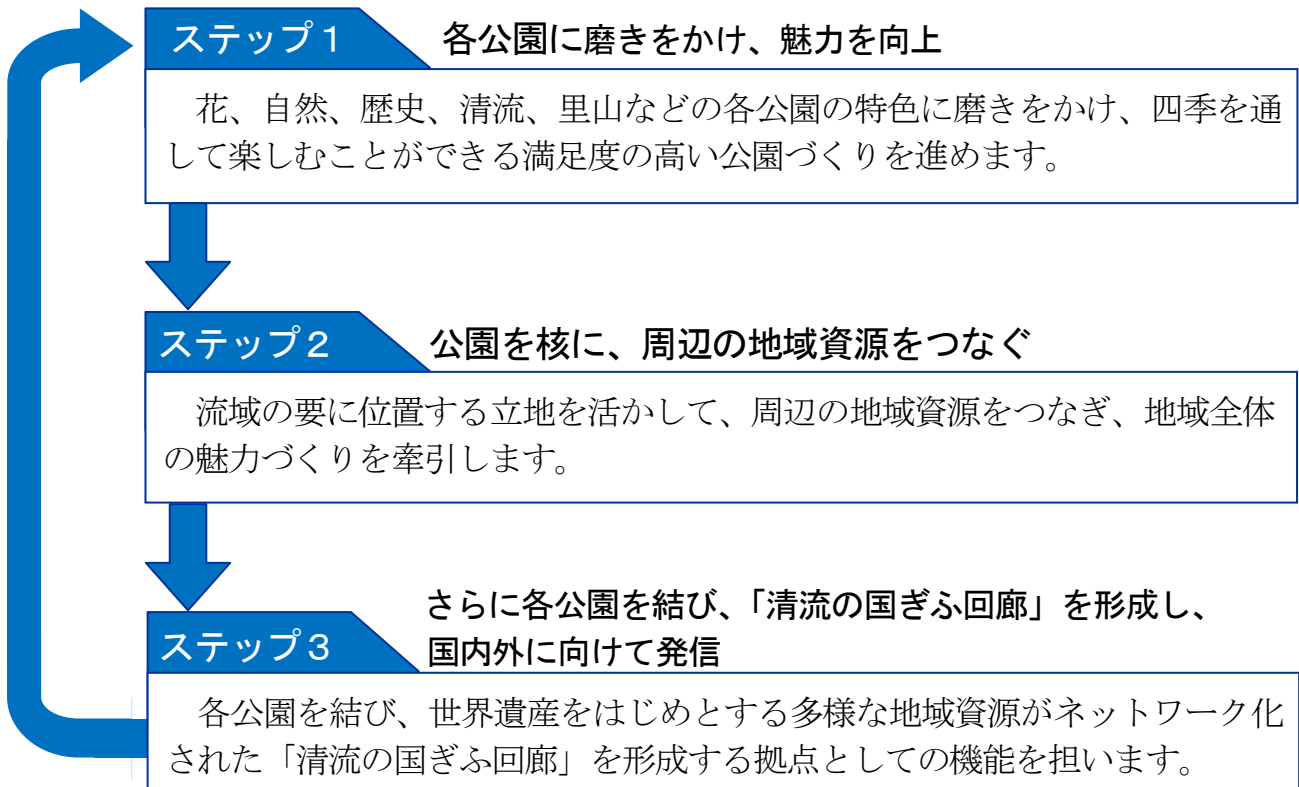
⑤ 人を育む公園づくり

- ・ 各公園の特徴を活かした人づくり

⑥ 多様な主体が参画する公園づくり

- ・ 地域住民との協働
- ・ 企業との協働
- ・ NPO、ボランティアとの協働

2. 3つのステップによる展開



3. 各公園ごとの基本コンセプト

3つの戦略テーマ、6つの取組方針及び3つのステップに基づき、「4公園共通の基本コンセプト」を以下のとおり設定しました。

4公園共通の 基本コンセプト

本県の自然、歴史、伝統、文化、匠の技などを、公園を拠点として、「清流の国ぎふ憲章」の「知」・「創」・「伝」に展開し、「清流の国ぎふ回廊」の実現に向けて、各々の公園をみんなで育てます。

さらに、「岐阜県都市公園活性化懇談会」においては、県営都市公園の魅力を最大限に発揮させていくためには、「良いところを伸ばすことが必要である」「個々の公園が競合するような関係ではなく、公園相互で機能補完すべき」等のご意見をいただいたところです。

そこで、各公園の現状、強み・弱みなどを踏まえつつ、公園相互で補完するため、「各公園の基本コンセプト」を以下のとおり設定しました。

各公園の基本コンセプト

花フェスタ記念公園	「世界に誇るバラ園を中心に花による感動をつたえる」
<ul style="list-style-type: none"> ・目を奪われるようなバラによる修景 ・国際園芸アカデミーとの連携による人材育成 ・花き振興の拠点として花のある暮らしを提案するなど花の魅力発信 ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更による国内外への発信 	
【重点的な展開】 日本全国、世界をターゲットとした展開	
養老公園	「健康長寿の願いと命への感謝が込められた自然と歴史をたどる」
<ul style="list-style-type: none"> ・清流の原点としての「養老の滝」へのアクセス向上 ・老若男女を問わない健康づくりの推進と子どもの健やかな成長を促す環境の充実 ・関ヶ原古戦場等の歴史遺産との連携による集客 ・情報科学芸術大学院大学（I AMAS）、岐阜県美術館との連携や養老天命反転地に触発されたアートの展開 	
【重点的な展開】 シニア世代、新たにアーティストや世界をターゲットとした展開	
世界淡水魚園	「川が育む豊かな自然と文化にふれ、生き物に親しむ」
<ul style="list-style-type: none"> ・国営木曾三川公園や各研究機関と一体的に遊びと学びをつなぐ ・里川の魅力と価値を発信し、川がもたらす恵みを後世に伝承 ・「清流の国ぎふ」の南のゲートウェイとして情報発信 	
【重点的な展開】 東アジアなどとの国際交流や国際貢献	
平成記念公園	「人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ」
<ul style="list-style-type: none"> ・里山環境を活かした外遊びプログラムの充実 ・里山文化が育んできた「匠の技」の体験 ・森林文化アカデミーとの連携による実践的な環境教育の展開 ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更と利用しやすい料金体系の検討 	
【重点的な展開】 利用者のニーズに応じた施設配置や管理運営方法などの全面的な見直し	